

設工業新聞

時代の呼吸に
応える技術。



東熱

東洋熱工業株式会社 <http://www.tonets.co.jp>



日本建築家協会(JIA)が5月31日開いた12年度通常総会で芦原太郎会長が再選された。東日本大震災への対応、国際建築家連合(UIA)東京大会の準備・開催という大きな経験を踏まえ、2期目を迎えた芦原会長は「地域に根差した社会貢献活動

や、一般社会に向けたメッセージの発信を通じて建築家の認知度を高めたい」と強調。来年4月に控える公益社団法人への移行を機に、「社会にとって、会員にとって魅力的なJIAにしていきたい」と力を込める。(編集部・山口裕照) = 1面参照

社会にとって、会員にとって

魅力的なJIA目指す



か乗り越えてきたという感じだ。震災の教訓と大会の成果から目指すべき方向が見えてきた。当たり前のことだが、幸せに生活する場、安心安全に生きる環境をつくる。このことに建築家自身が気付き、具体的な活動の中で役割を果たしていくことが重要だ。安心安全で持続可能な社会に向けた建築・まちづくり活動を推進する。

「社会にとって、会員にとって魅力的なJIAに」をテーマに掲げた。社会や会員、特に若い世代にJIAの魅力をかきつめてもらいたい。そのためにはJIAの活動を、会員一人一人に役立つ魅力的なものにしていくことが大切だ。

地域に役立ち、地域に貢献する活動を行う。支部、地域会の位置付けを整理して活動しやすい、地域に根差し、地域に密着した公益活動を積極展開していく。さらに団体の枠を越えた地域活動を通じて地域との関係

「JIAの登録建築家」と、士会連合会の「一括設計専攻建築士」の一本化に向け検討を再開した。

認定基準や認定機関をすり合わせ、UIA基準の新しい資格制度を目指したい。まずはそれぞれの団体内で合意形成に向けた議論を進める。職能を確立する中で資格の問題を考えていくと、会員一人一人が本質的な部分に引きあわせられる。さらに次世代建築生産社会システム構築に向け、多くの建築関連団体と議論を重ねてビジョンを共有し、市民や行政とも積極的

新しい建物を建てる以外にも専門家として地域に役立つ仕事はたくさんある。地域に根差した活動を通じて市民や社会に建築家を知ってもらい、「JIA建築家ブランド」を構築していきたい。マーケットはシユリンクしていると言われるが、目を外に向け、領域を広げていけばマーケットは計り知れない。

地域に根差した公益活動展開

「組織再編」「財政再建」「法・資格制度」の三つの改革を推し進めてきた。組織再編では来年4月の公益法人への移行に道筋を付け、財政再建では本部会費の値上げと経費のスリム化で収支がバランスしてきた。法・資格制度では、次世代建築

生産社会システムのロードマップを提言したり、日本建築士会連合会(士会連合会)との間で資格制度の一本化に向けた話し合いを再開したりと活発に動いてきた。これからの内外の改革を継続し、体制を整えながら、将来に向けた基礎づくりを行っていききたい。

「社会にとって、会員にとって魅力的なJIAに」をテーマに掲げた。社会や会員、特に若い世代にJIAの魅力をかきつめてもらいたい。そのためにはJIAの活動を、会員一人一人に役立つ魅力的なものにしていくことが大切だ。

性、結び付きを一層深めていきたい。会員種別を見直し、将来正会員になる事務所の所員や建築家を目指す学生、一般の方などに準会員や協力会員になってもらい、JIAの活動に参加してもらえらるようになりたい。

新しいマーケットを開拓していきたい。特に国際マーケットを切り開くため、設計業務の国際化サポート体制を整備し、「クロスボーダー・アーキテク

新しい会員制度により、支部・地域会所属の若い建築家や学生、さらには一般市民の会員を増やしてJIAのすそ野を広げる。同時に地域に密着した活動でサポーターや活動資金を増やしていきたい。平均年齢58歳の現状を改善するため、特に若い会員の増強に取り組む。会員サービスの観点から活動内容を見直し、魅力的な活動を積極的に展開していきたい。

「1期目の2年を振り返る。」

「2期目の活動方針」

「市場環境は厳しさを増している。」

「会員の増強や若返りも課題だ。」

「クロスボーダー・アーキテク」

「クロスボーダー・アーキテク」